

会 議 録

1 会議名

平成27年度第3回板倉区地域協議会

2 議題(公開・非公開の別)

○協議

(1)地域活動支援事業の審査について(公開)

(2)その他

・第1回校區別意見交換会の開催について(公開)

3 開催日時

平成27年5月28日(木) 午後6時00分から午後9時15分まで

4 開催場所

板倉コミュニティプラザ 201・202会議室

5 傍聴人の数

2人

6 非公開の理由

—

7 出席した者の氏名

- ・委員：平井達夫(会長)、大口ハル子(副会長)、新井清三、小林良一、徳永妙子、小川政彦、西田節夫、中嶋隆一、古海誠一、上原明紀、古川政繁、小林澄子、丸山公星、上野きみえ
- ・事務局：板倉区総合事務所 五十嵐所長、久保田次長、山岸総務・地域振興グループ長、武藤市民生活・福祉グループ兼教育・文化グループ長、高嶋建設グループ長、佐藤産業観光班長、嘉島地域振興班長、田中主事(以下グループ長はG長と表記)

8 発言の内容(要旨)

【久保田次長】

- ・地域協議会の開会を宣言。

【平井達夫会長】

- ・挨拶。

【五十嵐所長】

- ・挨拶。

【平井達夫会長】

- ・上越市地域自治区の設置に関する条例第8条第2項の規定により、委員の半数以上の出席を確認、会議の成立を報告。
- ・(1)「地域活動支援事業の審査について」を議題とし、事務局に説明を求める。

【山岸G長】

(資料N o. 1・2により説明。)

【平井達夫会長】

- ・提案事業の審査に入る。
- ・審査の方法について、得点順に並べてある資料N o. 2で例年どおり得点の上位の事業から今年度の板倉区配分額650万円の範囲で採択すべき事業を選定することとし、その際に事業費の内容を精査して、適切な助成額を決めていただくこととしたいが、異議ないか。

【委員】

- ・異議なし。

【平井達夫会長】

- ・1番「地域の観光案内看板の設置事業について」意見・質問を求める。

【西田節夫委員】

- ・申請書の4番、事業内容の実施方法について最後の欄に、「既存の看板については活性化委員全員で撤去する」となっているが、予算の中では解体撤去処理5万円となっており、これについては理解ができない。
- ・この5万円については解体したものをどこかで焼却する予定なのか、活性化委員全員で撤去するので、5万円はいらぬのではないか。
- ・既存の看板についての処理の仕方について、5万円はいらぬのではないか。

【小林良一委員】

- ・活性化委員全員で手伝うということですが、当初この見積りには撤去する時に大きな看板なので、重機で吊り上げたりしないと、けが人が出るので後から5万円ということ

で入れさせていただいた。

- ・看板が大きいので、そういう形の部分も含まれているということをお願いしたい。

【上原明紀委員】

- ・減額した場合、どうなるか。

【小林良一委員】

- ・減額した部分で小さい看板にするということは可能だが、前回のものも27年も据え付けられていた。
- ・今後、今ここで小さなものを作るより、何年も長い間使える状態だったら、できたら全額補助いただき、これから末永く使うという意味をお願いしたい。
- ・資金枠があれば減額でも取り組めるが、どうしてもそういう予算がないので、お願いしたい。

【古海誠一委員】

- ・この場所は板倉の観光の拠点的な場所に立てるので、これで進めたらどうか。

【西田節夫委員】

- ・マイナス5万円という話をしたが、素人ばかりでやるわけですから、クレーンを使って撤去しなければいけないのは分かる。

【丸山公星委員】

- ・大変金額が大きいですし、全体的に最後にいって帳尻の計算で5万円をどうしてもということになれば、ここで調整させていただくということで、是非これは認めていただきたい。

【平井達夫会長】

- ・丸山委員の方から100万円ということで、とりあえず決めさせていただくということによろしいか。

(「はい」の声)

- ・それでは決定額100万円とする。
- ・続いて「絆の森づくり事業（地すべり災害跡地復興事業）」について、意見・質問を求める。

【小林良一委員】

- ・地すべりの災害地ということで、全国的にも非常に有名になった場所でもあり、一挙

に全体に植樹をすることは問題があると思うが、段階的に少しずつ美化していこうという形の取り組みであり、よろしいと思う。

【上野きみえ委員】

・地元の方が一生懸命取り組まれている中での提案ということでいいと思う。

【平井達夫会長】

・賛成の意見が2件出たが、それでは皆さん採択、原案どおりでよろしいか。

(「はい」の声)

・それでは「絆の森づくり事業(地すべり跡地復興事業)」については提案どおり採択します。金額が31万7千円でよろしいか。

(「はい」の声)

・続いて「板倉コミュニティプラザ郷土歴史資料展示室リニューアル事業」板倉郷土史愛好会について、意見・質問を求める。

【上原明紀委員】

・この予算の中に歴史散歩マップというのがあるが、先ほどの地域観光看板とダブるような気がする。

【古海誠一委員】

・このマップについては、資料室の中に置いてボタンを押すと場所が点灯し、狭いスペースでも、子供でも良く分かるようにするというマップです。

【西田節夫委員】

・せっかくリニューアルするのであれば、今の場所では狭すぎであり図書室は今年いっぱい廃止ということになっているので、図書室と今使っている部屋と入れ替えてほしいという要望書を市へ出して、きちっとお金をかけてリニューアルすべきだ。

・今の場所では、せっかく作ってもあまり利用価値がない。

・歴史散歩マップについては、結構大きいので今の図書室が来年空くなら、そちらの方へ移していただき、来年から移るのだということになれば、作ってもいいかと思うが、それはだめだと市から言われた場合、作っても無駄かと思う。

・パネルについては、今の場所に入れるのではなくて、下の閲覧室に置いた方が皆さん来て見た場合「こういう所があるのか」ということで行ってみようかなという気になる。そういう意味で場所については、事務局でどういう考えか。

【武藤G長】

・まだ、今の図書の処分方法を含めて、今後の在り方自体が何も決まっていない。今の段階では申し上げる内容はない。

【平井達夫会長】

・来年は、板倉分室がなくなるというのは事実なのか。

【武藤G長】

・事務事業見直しの関係で廃止は公表されているが、具体的な手順や方法、分室の扱いについては何も決まっていない。実質廃止になったとしても、蔵書自体がそのまま残るのかも決まっていない。申し上げられないという段階です。

【古海誠一委員】

・今、西田委員からご指摘のような意見は郷土史愛好会の中でも出た。今、事務局から言われたように、図書室の廃止については、まだ何も決まっていない。

・このリニューアルの案で、動かせる様なスタイルでレイアウトを作りましょうということで、図書室も使えるようになったら、そちらの方に動かせる形で考えている。

【平井達夫会長】

・この窓口は教育・文化グループで、私がお願いしたいのは、総務の方も1本の矢よりも2本の矢ですので、同じことで本庁の方に、その様に考えていただきたい。

【西田節夫委員】

・マップですが、置き場所について皆さんから意見を聞いてほしい。今、資料室の中に入れるのは厳しい。

・わざわざ資料室に行く人は、年に何人かしかいないと思うので、下の閲覧室の所に置けば誰でも来た時に見れる。

【平井達夫会長】

・1階のフロアの北側の所にディスクが置いてある所に置いたらどうか。時間待ちでも見られるように、また、区以外の方がお見えになった時にも、直ぐに分かるではないか、同じ置くにも適正な場所に置いた方がベターではないかという意見です。

【上原明紀委員】

・やはり、2階のあの部屋で置くのでしたら作る必要はない。1階に置くのでしたら作ってもいいと思う。

【古川政繁委員】

・1階に置かれればいいのかと思うが作ったものを図書室へ運ぶというのは、壊したりする必要があるのか。そのまま持ち運ばれるのか。

【丸山公星委員】

・そういうことであれば、一旦作らせていただいて設置場所についてはまた、郷土史愛好会との協議の上で、もっと市民に活用できる場所を設定してほしいということにしてやったらどうか。

【小林良一委員】

・新たに図書室がOKになったから、新たに作るというのでは大変ですから、今回作って設置場所については、またいろいろな話し合いの中でどうか。

【平井達夫会長】

・小林委員の考えでは、図書室に置いた方がいいと、西田委員はやはり人が見れる触れる適切な場所は下のフロアだと、少し意見としては違うが。

【小林良一委員】

・下に置いた状態で非常に効果があるのであれば、そのままでいい。もし、図書室がフリーで使ってもいいということになれば、その段階で看板さえ作ってあれば、いかようにも流動的に動かせるということで、今回作らなくてもいいという形になってしまうと、また新たに作らなくてはいけないと、それが大変です。

【古海誠一委員】

・散歩マップと我々手作りの写真パネル等をいっぱい集めるわけですが、それと対峙できるような形で展示するので、パネルは向う、写真はここという話はやはりいかがなものか。

・子供達が来た時に、その部屋へ入ったら大体一目で判断できるようなレイアウトを考えているので、下に置くのはいかがかと思う。

・一番いいのは図書室がすんなり空けば一番いい。

【平井達夫会長】

・委員の皆さんの意見がまとまったようなので、設置については今後の問題点もありますので、次のステップということで、物を作るだけ作って準備して後、場所についてはどこにするかという形でもよろしいか。

(「はい」の声)

・それでは後、金額的な話は論議されていないが、これでいいですか。内容は書いてあるとおりですが、90万円の申請がされているが、これについてはいかがか。

【小林良一委員】

・板倉の郷土ということで地元の歴史だとか、その辺も今の展示場は非常に狭いのですが、ゆくゆくはきっちりした形で展示できるような形で、できましたら満額で通していただければありがたい。

【小川政彦委員】

・設置場所が不透明だということで、郷土歴史館としてPRするわけですから、最終設置がまだ不透明のため、パンフレットの中にどういうふうに表現するか。

【小林良一委員】

・将来的には図書館ということもあり得る。

【小川政彦委員】

・パンフレットの場所の表現方法を相談したほうがいいのではないか。

【平井達夫会長】

・満額がいいだろうということで、22万円についてということなのですが、いかがか。

【西田節夫委員】

・このパンフについては歴史の方だけで、観光についても入っているのか。

【古海誠一委員】

・主に、自然と歴史です。

【西田節夫委員】

・リニューアルオープンについての7万円のパンフは今回やめたほうがいいと思う。

【上原明紀委員】

・そう考えると7万円を減額すべきと思う。

【古海誠一委員】

・7万円の減額という意見が出ましたが、この2千部というのは、板倉区全世帯へ配布ということで、せっかくできてPRしないと皆さん分からないしということで、ふれあいまつりに合わせてオープンということで、パンフを作るということで7万円をもってある。

【上原明紀委員】

・今の案内というのは板倉区だよりの中に入れられないのですか。それは無理か、公共の事業とは別か。

【山岸G長】

・板倉区だよりに掲載は、オープンという形で載せることは可能です。

【上原明紀委員】

・そうしたらパンフは、いらぬのではないか。

【山岸G長】

・記事的にはA4の両面のたよりに一部掲載となります。

【平井達夫会長】

・それでは、今の減額7万円という話と100%という2案出ているが、いかがか。
・7万円減額してよろしいか。

【委員】

(「はい」の声)

・それでは、7万円減額ということで「板倉コミュニティプラザ郷土歴史資料館展示室リニューアル事業」についての採択額は、申請額90万円のところ7万円減額ですので、83万円です。それでよろしいか。

(「はい」の声)

・それでは、採択額83万円ということです。
・続いて「玄藤寺池あやめ公園創出事業」あやめを愛する会について、意見・質問を求める。
・意見が無いということです。申請額36万4千円、金額に対してはどうか。

【丸山公星委員】

・減額してしまうと整備になりませんので、全額にしてどうか。

【小林良一委員】

・あやめを愛する会は、今、見ても少し中途半端な感じがするので、包括的に最終的に仕上げていただくということで満額でいいと思う。

【平井達夫会長】

・それでは金額については満額でよろしいか。

(「はい」の声)

- ・それでは、「玄藤寺池あやめ公園創出事業」について36万4千円で採択する。
- ・続いて「和太鼓の活性化を図る事業」板倉和太鼓クラブの意見・質問を求める。

【小川政彦委員】

- ・正に少子高齢化で少ない子供が一生懸命頑張っているのです、これは満額採択でもいいと思う。

【上野きみえ委員】

- ・いたくら桜園に来て、オープニングで披露していただいて、とても皆さんも喜ばれている。これからも毎年来ていただく予定にしていますので、先のあることだと思いますので、このまま採択ということでもいいと思う。

【平井達夫会長】

- ・それでは、和太鼓の活性化を図る事業について、提案どおり採択してよろしいか。

(「はい」の声)

- ・金額については、24万5千円ということで決定した。
- ・続いて6番「板倉幼年野球用具関連事業」板倉スポーツ少年団野球クラブの意見・質問を求める。

【上原明紀委員】

- ・この見積りの中にスペシャルオーダーのミットが3つ入っていて、その合計金額が9万5千400円です。これは私から言わせれば贅沢品なので、削減した方がいいと思う。もし必要なら、保護者会というのもありますので、そちらから出してもらった方がいいと思う。従来は、ほとんど保護者会から出していた。

【上野きみえ委員】

- ・今、上原委員から言われましたキャッチャーミットですけども、普通のですと1万5千円位で買えるものです。それで十分だと思う。
- ・昇り旗ですが、私たちの時は卒業する時に保護者会で寄付したのですが、こういう物も卒業する時の寄付ということで、いいのではないかと。

【西田節夫委員】

- ・ミットの話だが、野球する子供さん達が多くなってきている。足りなくなっているという話なので、認めてあげるべきではないかと。

【上原明紀委員】

・スペシャルオーダーのミットは贅沢品で、これ自身が贅沢品です。安い物で全然問題ない。

【西田節夫委員】

・これは質のいい方のものでしょうか。

【上原明紀委員】

・いえ、これは公式というか高校野球レベルのミットの話です。値段は少年野球のレベルの話じゃない。

【西田節夫委員】

・でも、長く使えるではないのか。

【上原明紀委員】

・長く使えるけど結局、人は変わるわけです。本来は、保護者会がある程度、面倒見てきた実績があつてユニフォーム買ったが、それをクラブのユニフォームじゃなくて、個人のユニフォームにしたという経過があり、保護者会から色々クレームがついたことがある。

【西田節夫委員】

・ユニフォームだって人の着たものは、何年も着たものじゃないか。

【上原明紀委員】

・そういうものじゃないです。2年間か3年間しか着ないのに、自分達で買うというのは大変なので、それを使い回しができて、古くなればまた新しく買えばいいが、個人にそれを寄付することもなく、個人に支給したというのがある。

【丸山公星委員】

・今、上野さんからいろいろお聞きしたが、ミットについては、1万5千円位で十分だという話を聞いているので今回はここで4万5千円で、5万円の減ということでどうか。

【平井達夫会長】

・丸山委員からミットについて、幅があると。そういう中で5万円位減額しても、それなりのミットを買えるという話ですが、それでよろしいか。5万円減額。

(「はい」の声)

・そうすると、25万9千円。今、丸山委員トータルで5万円減ですか。

【丸山公星委員】

・昇り旗については、子供たちに元気を出させるという意味で、これは認めよう。ただ、ミットについては、そんな贅沢品をとということで5万円ということでどんなもんか。

【平井達夫会長】

・上野委員の方からはミットと昇り旗という話が出たが、丸山委員の方からミットだけでいいんじゃないかということで5万円減額とそれでよろしいか。

(「はい」の声)

・それでは、「板倉幼年野球用具関連事業」につきましては、提案どおり採択すべき事業でよろしいですね。

(「はい」の声)

・それでは、採択額については、30万9千円の申請でございますが、マイナスの5万円で、25万9千円ということで決定させてもらってよろしいか。

(「はい」の声)

・続いて、「みよしの里美化整備事業」みどりやすらぎグループの意見・質問を求める。

【上原明紀委員】

・約600メートルというのは長すぎると思う。まず、提案は完璧にできるという提案だったが、スギナがどれくらい出るかはっきり分からない。

・スギナをきちっと管理しないと、結局スギナに養分を取られて花が咲かない。

・法面というか、建物の面の約100メートル位をまずやってみるべきではないか。

【西田節夫委員】

・中山間地支払事業について、該当する。今、上原委員から言われるように、600メートルですが、そうすると畦畔については、約9反5畝ある。そうすると中山間地支払は、1年で18万5千円が入るんです。ですから両方でもらっちゃうと、支援事業と中山間地が入っちゃうと。

・今まで、自分で畦畔やってお金を交付していたわけですからシバザクラを植えると草刈りしなくていいわけです。中山間地支払は、今年から6年間始まるわけですから、ざっと計算すれば約100万円位入ってくる。

・それは別としてですね、草刈りしなくていいわけですから、まず少し半分でもいいし、600メートルの2分の1の300メートルでもいいので、やってみて良くなっていい

たら、地元でやればいい。

【山岸G長】

・今ほど、西田委員の方から直払いの話が出たので、訂正であったり補足であったりさせていただきます。

・今、西田委員が言われた9反5畝というのは、畦畔ばかりじゃなくて水田面も含めての面積です。田んぼの部分については直接支払いに入っている。こちらのアジサイが植えてある方は直接支払いの対象外なので、ここで言われているすべてが直接支払いに入っているという話ではないのが1つあります。

・田んぼの関係で交付金はもちろん出ます。ただ、ご存知のように、直接支払いというのは個人配分分と共同取組分があって、そこのお金について、皆さんの総意があって、皆さんシバザクラ植えるのに直払い使っていいという合意形成が取れて、皆さんがこへ植えましょうということが了解できなければ、直接支払いのお金を投入することはできません。

・委員が言われた補助の二重取りというかダブルになるという部分については、直接支払いは、維持されていることに関して2万1千円、急傾斜の場合2万1千円が出るということで、直接支払いの事業でシバザクラを植えない限り、補助の二重取りということにはならない。

【平井達夫会長】

・皆さんの合意というのは、いわゆる町内会の皆さんの合意なのか。

【山岸G長】

・直接支払いの協定のです。直接支払いの方は直接支払いの方で決めていただく。

【中嶋隆一委員】

・シバザクラ植える所も非常に広いわけです。皆さんおっしゃっているように、最初は実験的にやすらぎ荘の下の道路から見える土手に100メートルというのはちょっと長いと思うので、その半分位、50メートル位、とりあえず初年度で実験的にやってみたらどうか。

【小林良一委員】

・シバザクラというのは生き物なので、100万円投入してダメだったというわけにはいかない。

・部分的にチャレンジしてみて、それが効果あるということなら、また次回取り組んでみることもあるので、とりあえず、これだけの金額を一挙に投入すること自体はちょっと厳しいのではないか。

【上原明紀委員】

・長さを中嶋さんが言われた150メートルだと、どこらあたりまでくるか正直言って分からない。

【丸山公星委員】

・やすらぎ荘もやっぱり観光の1つの拠点として、清里区の施設のようにならないようにいろいろ考えて、さらに地域の住民の方もみどりやすらぎグループを作って、周辺の整備をやっている。

・仮に100万円がダメだったら、少しずつ認めていただきたいということを地域の住民としてお願いしたい。

【平井達夫会長】

・色々な意見出ているが、一応600メートルのところを50メートル位、100メートル位とか、こういう話でなかなかはっきりはしない。

【丸山公星委員】

・金額でいくしかない。

【小林良一委員】

・逆算してできる範囲でどうか。

【平井達夫会長】

・では、金額で決めてそして逆算する。結果としてはどれくらいのメートル数になったとこういう形になると思うが、それでよろしいか。

(「はい」の声)

・それでは、いよいよ採択額ですが、いかがか。

【丸山公星委員】

・結構高い得点でもあるので、7掛け位でどうか。

【上原明紀委員】

・この見積もり見てシバザクラと防水シートだけで、90万円近くしている。

・このメートル数を減らすのだったら、ここをほとんど減らすということになると思う

ので、せいぜい20万円です。

【西田節夫委員】

・2分の1。50パーセントでどうか。

【平井達夫会長】

・折衷案として、金額の折衷案はないが、半分です。それでは、50万円という意見が出ていますが、それでよろしいか。

(「はい」の声)

・それでは、50万円ということで金額を決めたということで、提案者に対しては逆計算してもらって、提案していただく。

・それでは、「みよしの里美化整備事業」につきましては、提案どおり採択し、補助額は、半分の50万円としたいと思うが、よろしいか。

(「はい」の声)

・それでは、50万円ということになりました。

・続いて、「焼山城跡周辺整備による保存・継承事業」焼山城狼煙を上げる会の意見・質問を求める。

【上原明紀委員】

・場所は私有地ということで、非常に気になる部分があり、今、新潟市のドカベンの関係で問題になっていると思うが、要は代が変わったときにそれが存続できるのかどうか、そういう問題があるかと思うが、その辺どうか。

【古海誠一委員】

・事前協議で地権者5名には、その旨で了解を得ております。

【上原明紀委員】

・それは分かるが、代が変わったときにどうか。

【古海誠一委員】

・書面を頂きます。

【上原明紀委員】

・いや、書面にしても結局、失礼な言い方ですよ、その方が亡くなって代が変わったときに、それを元に戻すということは、書面者はあくまで今の方です。でも結局亡くなるも権限は次の代になる。その代の方に対しての保障はない。

【古海誠一委員】

- ・これは地上物件の木の伐採に関わることです。

【上原明紀委員】

- ・そうですが結局、その事業を継続していったとしても、代が変わったときに意味が無くなるのではないかという危惧をしている。
- ・新潟市の場合でも市と本人はある程度了解されていたが、結局、代が変わったら撤去しろという話になってきている。そうなる、どこまで継続できるか心配である。

【西田節夫委員】

- ・伐採については、構成員が52名いるので危険なものについては業者でもいいが、細い木の伐採なんかは、個人でもできるのではないか。
- ・申請としては焼山城狼煙を上げる会が一番多く今回で5回目で、同じところから何回も出てきているじゃないかという意見がある。
- ・事業が違えばいいのかという話が必ず出てくる。
- ・板倉区の採点方法は決まっているので、2回・3回目以降については、どうしてもこの事業を進めていかないといけないという話でしかない、本来はそのへんをきちんと議論しておかないと、いつになっても終わらない。

【大口ハル子副会長】

- ・先ほどから金額的な問題になっているが、やっぱり、面積を最小限に抑えて、外枠とどうか、見えなくても、ちょっと広場が見える、隙間がある、そんな感じの作業にしたいだけならいかがか。

【小林良一委員】

- ・当初ですね、焼山城と言われても、よく分からなかったが、古海さんたちが色々調べて、今やっと景観が見えるようになってきた。
- ・今、城ブームとかで歴女とか言って、女の人もお城へ行くような時代になってきているので、箕冠城がある程度、整備が完了してきているので、焼山城もある程度整備を進めていただければいいのではないかと考える。

【西田節夫委員】

- ・箕冠城については、市の公園指定になっているが焼山城については、まだ指定も何も無い。

・本丸城の石碑については、本来は支援事業で建ったように入れなければいけないのに、何で曾根田町内会になっているのか。

・曾根田町内会でやるなら曾根田町内会で、きちんとやればいい。

【古海誠一委員】

・曾根田町内会にした理由は、こういう線引きというのは100年、200年と続くので曾根田町内会の役員が焼山城狼煙を上げる会のメンバーになっているので、後々のことを考えて名前を使わせてもらった。

【西田節夫委員】

・それはちょっと、私としては違う。支援事業で作ったので、支援事業の名前でやるのが当然である。

・郷土史愛好会の方が去年、高野の代官所跡の看板も、愛好会の名前しか入っていない。

【丸山公星委員】

・今まで作ったものについては、その後、そのようなものは支援事業と入れるのは不可能だと思うが、今後は支援事業で作ったものは支援事業ということを入れるということかどうか。

【古海誠一委員】

・当時、イメージの図を出して、曾根田町内会になっていて、皆さんから承認されているので、今ごろそういうこと言われても、石碑は直すわけにもいかないし、そこはご勘弁を願いたい。

【丸山公星委員】

・この金額ですが、伐採の後片付けということで、単価が3万円とか4万5千円というので、ちょっと単価が高いような気がする。先程、大口副会長が言われたように、もう少し範囲を狭めて、もう少し金額を減額したらどうか。

【五十嵐所長】

・活動支援事業の成果について、おそらくスタートのころは、そこまで必ず表示してくださいとかいうお願いまではしていなかったと思う。

・やっていく中で、活動支援事業を活用してやった事業だとか作ったパンフレットだとか、作った本だとかいうようなアピールしていただきたいというお願いをしてきている経過はある。

- ・今、過去のを云々というのは現状では難しいと考える。

【小川政彦委員】

- ・伐採の3万円というのは、高いと思う。大きな木を切るわけではないのですから、私も町内会で草刈りとか、木を切るが我々は、農業委員の7,560円でやっている。
- ・3万円というのは高いと思いますので、この3万円を半分位の中でやっていただき、減額でどうか。

【西田節夫委員】

- ・3万円の半分、1万5千円ですか。後片付けもそうですよね、4万5千円。7日になっているので、これも半分にして両方合わせて半分にすると19万5千円です。
- ・片付けについても合わせて35万2千500円の減額にしたらどうか。

【古海誠一委員】

- ・今、その3万円が高すぎるという根拠がよく分からないが、これは2社見積りを取っており、1人3万円は、両社同じだ。

【上原明紀委員】

- ・3万円は高いでしょう。時間5千円というのは、雪降ろしで、だいたいそんなものです。私、実家で業者さんに5本切ってもらって10万円位でした。

【山岸G長】

- ・今、小川委員が言われた伐採・片付けを半額、重機回送とその他工事はそのままということになると小計が41万2千500円ということになり、消費税が3万3千円で合わせて合計が44万5千500円となる。

【平井達夫会長】

- ・44万6千円ですか。これでよろしいか。

(「はい」の声)

- ・それでは、「焼山城跡周辺整備による保存・継承事業」につきまして、提案どおり採択する。補助額については、44万6千円よろしいか。

(「はい」の声)

- ・それでは事務局、15件のうち8件採択した。ここで、だいたい半分ですが、決定した金額を教えてください。

【山岸G長】

・今で396万1千円です。

【平井達夫会長】

・1番から8番まで、決定金額が396万1千円です。650万円ですから、あと残りが253万9千円です。

・それでは、続いて「針秋祭り活性化事業」針町内会の意見・質問を求める。

【丸山公星委員】

・針の活性化ということで、今回、全額認めたらどうか。

【中嶋隆一委員】

・この趣旨は分かるが、確か2年位前に田井の町内会が同じような提案があった時に、趣旨に沿わないということで不採択となった気がする。

【西田節夫委員】

・重なる部分はない。田井の場合は、夏祭りでカラオケセット・照明が出てきたが、今回は田井のものとは違い、浴衣というのは、高野のしげさ踊りとかと一緒に考えである。

【小林良一委員】

・針地区が一番人数も多いし、核となっていていろいろな活動していかなきゃいけないという意味合いもある。

・大鍋でソーメンというのは今年限りということで、いろいろ催し物が必要という形だが、できたら長く継続するという形で取り組んでいただくという条件付きで、満額でいかと思う。

【平井達夫会長】

・活性化はやっぱり末永く続けないと意味がないということで、そういう条件の下に採用、100パーセントということでどうかという意見が出たがいかがか。

【委員】

・異議なし。

【平井達夫会長】

・それでは、「針秋祭り活性化事業」針町内会については、原案どおり助成金額72万円、満額で採択とする。

・続きまして「箕冠城址公園の利活用による地域の活性化事業」山部地区連絡協議会、の意見・質問を求める。

【丸山公星委員】

・寺野地区のようなイベントの開催の回数もないのではないかと思うので、お互いに貸し借りして、減額ということでどうか。

【平井達夫会長】

・ただ今、丸山委員の方から99万9千円の申請出ているが、内容はオーディオの購入が含まれているので、これについての話である。

【小林良一委員】

・前回、寺野地区でオーディオということで審議していただいたが、その席上で西田委員から貸出しできるかという質問があり、それは可能という形で取り組んでいる。

・祭りが同じ日にかち合った場合は別ですが、通常は、有効活用ということで活用はできると思う。壊れたら買ったところで修繕していただくという条件付きです。

【古海誠一委員】

・昨年度の報告会の際の説明では、200人が集まったということだが、外部からどれだけ来たかという質問に対して、50人ということでチラシの枚数5,000枚にしては、非常に効果が薄い。

・今年度の計画については、11月8日に事業をやりたいということで、季節外れな時期に開催するというので、忙しくてそこしか時間設定できないという返答で、いかにもお客様本位じゃなく、主催者側の都合での事業の開催ということで、非常にひっかかるものがある。

【上原明紀委員】

・箕冠城址として4年か相当の金額をつぎ込んできていて、またこの金額ですから、相当の金額になると思う。それを考えるともう少し精査する必要がある。

【西田節夫委員】

・ポスター、チラシ、去年と一緒に、チラシをまいても、そんなに効果が50人程度しかないということで、まず地元がきちんと参加をしていただきたい。

・音響については寺野地区の方で貸出しは不可とする理由はないということで、ポスター・チラシについては、3,000枚程度でいいのではないか。

・去年も大鍋をやったが、皆さんで構成員がやるならまだいいが、該当しない。去年は初めて箕冠城、観光、新幹線開業ということでやったが、今年の場合については2回目

なので、これはやるべきではない。

【丸山公星委員】

・仮設野外ステージに6万5千円、これはいかななものか。たった1つのイベントにお金をかけ過ぎで、もう少し考えて手作りのできる。

【小川政彦委員】

・上原委員から先ほどの話だが、この事業は平成23年度から3年間は整備事業として実施し、昨年からはソフト面として内外を合わせてアピールをして観光面を集客するのは、まだ2年目であるということを皆さんに分かっていただきたい。

【中嶋隆一委員】

・この提案もそうだが、チラシとかポスターとかそういった印刷費用が端的にすごく高い。もうちょっとシビアにコスト削減していくそういうことに努められた方がいい。

【丸山公星委員】

・1個1個、項目ごとに金額を査定していったらどうか。

【平井達夫会長】

・それでは、ただ今、そういうような提案ございましたので、私の方で読み上げます。会場使用料、1万6千円。

【委員】

・異議なし。

【平井達夫会長】

・いいですか。会議資料、1万6千円。狼煙材料費、1万6千200円。大鍋祭り。

【委員】

・異議なし。

【平井達夫会長】

・はい。イベントステージ。

【丸山公星委員】

・これは、もう少し手作りできるような。ビールケースぐらいいくらでも借りてくればできる。

【上原明紀委員】

・各町内会にテーブルとかないでしょうか。

【丸山公星委員】

- ・ビールケースぐらい借りてきて運んで作れないか。

【上原明紀委員】

- ・4万5千円ぐらいですか。

【平井達夫会長】

- ・数字的に4万5千円という数字出ていますが、いかがですか。その他。4万5千円でいいですか。

(「はい」の声)

【平井達夫会長】

- ・それでは、4万5千円。音響設備。

【上原明紀委員】

- ・なし。

【平井達夫会長】

- ・音響設備については、なし。ガイド料、1万円。

【丸山公星委員】

- ・ガイド料って、何するのか。

【西田節夫委員】

- ・ガイド料っていうのは、おもてなしの会のみんなでガイドの養成をしている。時間千円をお願いしてやっているの、これはちょっと高すぎる。

【平井達夫会長】

- ・今、2名ということで、単価が5千円の1万円という結果が書いてあるが。

【上原明紀委員】

- ・1名の5千円。

【平井達夫会長】

- ・はい、5千円に修正してください。昇り旗、6万2千796円。

【上原明紀委員】

- ・これは、再利用できるのか。

【小林良一委員】

- ・安いものだと、せいぜい2年持てばいいところだ。

【丸山公星委員】

・ 5 掛けで 3 万 2 千円。

【平井達夫会長】

・ 3 万 2 千円でいいですか。

(「はい」の声)

【平井達夫会長】

・ はい、3 万 2 千円。ガイドパンフ。

【西田節夫委員】

・ これも半分位でいい。

【上原明紀委員】

・ 6 万 9 千 1 2 0 円。6 万 9 千円。

【平井達夫会長】

・ はい、6 万 9 千円。ポスター。

【西田節夫委員】

・ ポスター、このままでよい。

【平井達夫会長】

・ 今、ポスターについて 3 万 4 千 5 5 0 円については、1 0 0 枚、このままでいいという意見ありますが、よろしいか。

(「はい」の声)

【平井達夫会長】

・ ポスター、このまま。チラシ、9 万 6 千 1 2 0 円。

【西田節夫委員】

・ これは、半分。

【上原明紀委員】

・ 4 万 8 千円。

【平井達夫会長】

・ 金額的に、9 万 6 千 1 2 0 円の半分の切りのいいところで、4 万 8 千円。よろしいですか。トータルお願いします事務局。

【山岸G長】

・ 3 2 万 1 千 2 2 0 円。

【上原明紀委員】

・ では 3 2 万 1 千円。

【山岸G長】

・ ガイドパンフの所は、6 万 9 千 1 2 0 円にしないで 6 万 9 千円でいいのですか。

【平井達夫会長】

・ それでは、四捨五入によって、切り捨て 3 2 万 1 千円で、よろしいか。

(「はい」の声)

【平井達夫会長】

・ それでは、箕冠城址公園の利活用による地域の活性化事業、提案のとおり採択をいたします。助成金額でございますが、今ほど皆さんの方から項目ごとに精査していただき、3 2 万 1 千円です。よろしいか。

(「はい」の声)

【丸山公星委員】

・ それで、このへんで総トータルいくらになるのか、もういっぺん、確認させてください。

【上原明紀委員】

・ 5 0 0 万 2 千円です。

【山岸G長】

・ そうです 5 0 0 万 2 千円です。

【平井達夫会長】

・ それでは、あと残金 1 5 0 万円弱です。

【山岸G長】

・ 戻っていただいて恐縮ですが、先ほど焼山城跡周辺整備の所で、皆さんのご提案から単価を下げたというか、費用の方で見て、ちょうど半分にして積み上げて 4 4 万 6 千円になったが、事業計画では、伐採面積を 3 5 0 0 平方メートルとしているが、この金額に見合った面積に縮小して、申請していただくということになるということによいか、確認をさせてほしい。

【平井達夫会長】

・ただ今、事務局からそのような提案あったが、提案者の古海委員どうか。

【古海委員】

・もう、金額決まっていますので、面積見合いでやらざるを得ない。

【西田節夫委員】

・今の話は、それだったら何故減額したのだろうという話になる。

【山岸G長】

・そうでしたら、この先ほどの単価を減らす中で、この計画を請け負ってもらえるかどうかという話になる。

【上原明紀委員】

・予算案内でやってもらうということでどうか。

【西田節夫委員】

・それでは、減った分だけ縮小しますと言ったら結局は一緒ではないですか。だから今決まった金額で、いままで通りやってもらうということです。

【丸山公星委員】

・西田委員、そうしますと先ほどのやすらぎ荘のシバザクラも100万円の部分を全部やれと言っても無理ですね。やはり予算に合った面積にならざるを得ないのではないかと。

【古海誠一委員】

・単価を下げた値段で同じ面積をやれと言ったら、でたらめになってしまう。

【丸山公星委員】

・それは、これから板倉区の採択方針を徹底していくということで、来年からも新しい委員さんに付託していくより仕方がない。

【西田節夫委員】

・採択方針からいくとまるっきりだめです。今出てきたものは。

【上原明紀委員】

・とにかく予算内でやってもらうという方針でいいのではないかと。

【西田節夫委員】

・今回、半分減らされたから、来年に半分ということになってしまう。いつになっても終わらない。

【上原明紀委員】

・それは3年以降、同じことをやらないことに決まっているわけです。

【平井達夫会長】

・西田委員が言うのは単価を半分に下げたわけです。それだから、その辺の話と今は焼山城址のほうは合計金額がこうなったのだから、その範囲でやらしてもらう。

・西田委員が心配しているのは、今後もそれが他の方に尾を引いてくるのではないかとというような心配もしている。

【丸山公星委員】

・議事進行をお願いします。

【徳永妙子委員】

・単価が高いという話が出ましたが、それも含めた上で狼煙上げの方がまた、そこも考えながら安全でない作業はできない。

・大きい物を扱うので、その辺もよく考え今出た話も考えて、できる部分とできない部分があると思うので、これしかできないよということであれば、面積が小さくなくても仕方のないことと思うので、その方向で行ったらどうか。

【平井達夫会長】

・今、徳永委員から、その様な話が出ております。金額の中で各々の状況があるわけだから、それによって決めたほうがいいのではないか。それでよろしいか。

(「はい」の声)

・それではその様をお願いします。「里山の復元と世代を超えた交流事業」北之山管理運営協議会の意見・質問を求める。

【西田節夫委員】

・北之山についてはソバの収穫祭がありますが、構成員だけでやるのならまだいいが、先回、収穫祭にソバ粉60kgを作って100人と少ししかこなかったという話で、約100人位でしたらソバ粉20kgもあれば間に合う。

・本来はこの40kgを売却したのなら話は分かるが、今だいたい1kg千円位で売っている。40kgで4万円になるので、収穫祭は構成員でやるということでないとなかなか難しくなっていくのではないか。

・歩道の整備については、去年は400mで今年は600mになっていますから去年は実績として8万6千224円、今年の見積もりでいくと49万5千900円で、去年か

らみると高くなっている。

・去年は階段が結構つくられています。今年も階段は何箇所か作られますが、それにしても去年より相当額が大きいです。去年の見積りでは17万2千円、実績で8万6千224円かかるので、100m当り8万2千円位かかる。

【丸山公星委員】

・ソバ収穫祭イベントで、5万2千500円上がっているが、こういうものは公費でやるべきかどうか、やはりこれは参加者とか、そういう参加料をとって運営するのではないかと思いますので、削除ということをお願いします。

【上原明紀委員】

・世代を超えた活性化で今、丸山委員から言われたその部分を差し引いた金額でどうか。

【平井達夫会長】

・今、そのような意見があるが、そういうことでいいか。

(「はい」の声)

そうするといくらになるか。

【丸山公星委員】

・5万2千円減ということで。

【平井達夫会長】

・その他、無いですか。よろしいか。

(「はい」の声)

・それでは確認します。里山の復元と世代を超えた交流事業は提案どおり採択します。なお、助成金額につきましては、62万円に対しまして、56万8千円で採択してよろしいか。

(「はい」の声)

・それではその様をお願いします。続いて「古代の歴史を訪ねながら、体力づくり及び文の山観光開発に係わる事業」寺野の歴史を語る会の意見・質問を求める。途中ですが事務局、合計額はいくらですか。

【山岸グループ長】

・今の56万8千円を入れて557万円丁度ですので、この事業120万円希望どおり入れることは不可能になります。後、93万円です。

【平井達夫会長】

- ・トータルは557万円です。

【丸山公星委員】

- ・この歴史を語る会の私、メンバーでもあるが、回数も少し多すぎるということと、板倉の共通審査、板倉の採択方針についてもけっこう×が多いわけですので、あれだけ整備されているのだから今回は全額カットでどうか。

【西田節夫委員】

- ・今、丸山さんの言われたとおり23年の年に聖の岩窟から駐車場を整備して、あそこからまた上がられるように整備をすればいいが、全然維持管理をしていない。
- ・ここ2・3年、聖の岩窟によく行くが、丈の山から聖の岩窟に降りてくる間が維持管理をしてありません。
- ・何で最初から上の方で造らなかったのかなという気がする。ですから今回については不採択ということで、私はいいのではないかと思います。

【平井達夫会長】

- ・只今の2人の委員の話からすると、ある程度の整備は終わっているというようなことで、今回は不採択でいいのではないかという意見のようですが、他の委員はどうか。

【上原明紀委員】

- ・異議なし。

【古海誠一委員】

- ・丸山委員が寺野の歴史を語る会のメンバーだと言っていましたが、会としてこういう意見を出したのか疑問ですが。

【丸山公星委員】

- ・総体的に見てそう感じた。西田委員から聖の岩窟については整備したのですが、雪崩で全部やられてしまうのです。だからあちらの方は整備することは難しいです。

【西田節夫委員】

- ・今年も聖の岩窟が崩れてきたということで見にいってきた。そんなにずれてきているということは無いが、危険なことは危険です。

【丸山公星委員】

- ・仮に予算的に10万円もらっても、どうにもならないです。全部削っておいたほうが

いいのではないか。

【古海誠一委員】

・筒方口から上がって行った所の駐車場が狭いので、1 m位拡張はどうか。

【西田節夫委員】

・私も何回か行ってきたが、ほとんど車が止まっていない。1回も合ったことがない。

【平井達夫会長】

・その他、ご意見ありませんか。費用の項目を見ますと駐車場の整備、階段、重機の運搬費等あるが、地元の丸山委員の意見ですと今回はいいのではないかという話です。

【丸山公星委員】

・そういうことであれば全部の残を見て、もし余るようであれば。

【上原明紀委員】

・余らないです。

【中嶋隆一委員】

・先ほどの古海さんの発言のように裏側の駐車場だけでもやったらどうか。

【丸山公星委員】

・最終的にこれについて保留にさせておいてもらって、後の提案をやったらどうか。

【山岸G長】

・今回の順位付けの中で採択方針に則りますと、上位の事業から配分額の範囲で採択すべき事業を選定すると、その際に事業の内訳を精査して助成額を決めていくわけですが、問題になっている寺野の関係は、満額の計算では落ちますが、まだこの下に順位としてはある。

・提案者の方から取り下げの申し出もない中で、この地域協議会においてゼロを付けるという理由ですね、理由というのは提案者にこうだったのでゼロですという説明がうまくできるのか。

【上原明紀委員】

・西田委員、これは何年からやっていましたか。

【西田節夫委員】

・22年からです。去年は無いです。

【上原明紀委員】

・ 4回になる。

【丸山公星委員】

・ だから板倉の採択基準としてはだめだ。

【平井達夫会長】

・ 今、上から精査しているわけで、そして、今年の平成27年度の板倉区の支援事業の予算というのは、皆さんお分かりのように650万円ですから上から審査しているわけで、たまたま、今のところに来ましたら、これはいいのではないかというお話なのですが、それは確かにそういう意見もあるだろうけども、そういう決めからすると、少しおかしいのではないか。

【山岸グループ長】

・ 断る理由というものははっきりできるのであれば、いいと思うが。

【平井達夫会長】

・ 提案者に対して断る理由をはっきりすれば。

【山岸グループ長】

・ 予算枠を超えたために、事業は不採用になりましたとか、そういう理由が納得のいくものだと思うが、先ほど言われたように内容を精査されている中ですので、減額というのはありえるかもしれないが、ゼロをこの場で決めるのはどうか。丸山委員がこの団体の代表者で、この場で取り下げしますと言ってくだされれば、話は別だが。

【丸山公星委員】

・ それは地域協議会としてゼロを付けたと、例えば板倉区の採択基準とか基本審査で、それはだめですよということは、だめなのか。

【小川政彦委員】

・ ゼロというよりも採択、不採択の理由をはっきりしてくださいということだ。ゼロというのは後づけです。

【西田節夫委員】

・ 丸山委員が言われるように板倉基準に合致をしていない。22年から25年まで同じ事業できているので、今までに板倉基準ではねておけば、こういうことが出てこないが、ずーっと今まで採択をしてきたわけですから、今、丸山委員が発言をされていると思う。

【丸山公星委員】

・そういうことで理由になるのではないか。

【西田節夫委員】

・それで私は理由だと思います。

【丸山公星委員】

・全部5年間、同じ内容です。

【大口副会長】

・そういうことは、受付段階で確認できるようになっていると思うが。

【丸山公星委員】

・それは、総合事務所の段階で3回です5回ですとはねてしまうとうまくないのではないか。

【大口副会長】

・でも目に見える歴然としたことは、5回は絶対に無理なのだよということを、その辺の確認は。

【丸山公星委員】

・今まで、それがすごく曖昧できていたのではないか。

【大口副会長】

・5年連続だからということは、理由にはならない。

【上原明紀委員】

・それは受付で、採択はまた別ではないですか。

【大口副会長】

・受付を通りぬけてしまったのだから。

【上原明紀委員】

・受付を通りぬけても、委員の検討では不採択だから。

【丸山公星委員】

・結論的に板倉区の採択方針に合致しないと同時に予算がオーバーしている。

【小林良一委員】

・それが評価する時に出ていれば、本来ならいいが、もう3年以上でもうだめだというのが、一番最後の場所に位置していれば問題ないが。

【上原明紀委員】

・それを言うと、誰かが全部管理しなくてはいけないという話です。

【山岸G長】

・今、3回、4回、5回なのかという話があるので、寺野の歴史を語る会の過去の申請の内容を見ていただき、判断をしていただければいいか。

【西田節夫委員】

・分かっていると思うのですよ。事務局にもあげてあるわけですから、それを見て受付をしていただければ。

【山岸G長】

・受付には3回目以降は選定しない。ただし、事業の必要性発展性について十分確認審査し、必要な事業は選定するですから。

【上原明紀委員】

・ただ、精査して採用しなければいいのではないですか。

【山岸G長】

・今、お配りしますので、これだけやっているの、それ以上必要ないので採択しないということで、この寺野の関係を採択しないというふうに決められるのであれば、次に進んでいただいてもいい。

【平井達夫会長】

・今、コピーしているので、先に行けということですから板倉北部運動公園（十作公園）活用事業、稲増自治区の意見・質問を求める。

【上原明紀委員】

・前も言いましたが、草刈機はまず1台で十分だ。

【西田節夫委員】

・板倉北部運動公園維持管理の協定書がかわされた。今年の4月1日から報酬については稲増の町内会へ年間28万7千円入るようになっている。

・南中島から同じ申請が出てきたものを不採択にしておいて、今度稲増のものを採択するというのは違うかなと思いますので、そこら辺を皆さん議論して決めていただきたい。

【古海誠一委員】

・今、西田委員が言われるとおり、物品は借りても大会が開けるはずなので、その実績を見てから提案していただいたら、いかがか。

【上原明紀委員】

- ・西田委員に質問ですが、草刈機を買って管理をすることも契約書に入っているのか。

【西田節夫委員】

- ・年に4回刈るようになっている。

【上原明紀委員】

- ・そのための機械は支給されないのか。

【西田節夫委員】

- ・皆さんのところに協定書が行っているはずですので、市で半分、稲増で半分補助しながら維持管理をすることになっている。

【上原明紀委員】

- ・②のグラウンドゴルフ用品の諸経費を省いて、草刈機が2台必要かは分かりませんが、これはOKということになるかなと思う。

【西田節夫委員】

- ・草刈機は1台で間に合うと思う。

【上原明紀委員】

- ・だから1台分のガソリン代を。

【西田節夫委員】

- ・公園とか、小学校のグラウンドは除草剤をまくことはできない。

【武藤G長】

- ・今、地元稲増と市との協定ということですが、今までですと業者委託で、それなりのお金がかかっていたが、それも年に3回しか草刈をしないということで地元としては十作、宮古島との交流という形で、そういうふうな形の公園ですから地元でもっと来た人に快適な環境で過ごしていただきたいというような形で申し出ていただき、それで市と協定を結んだという経過です。

- ・お金に関しては本当の意味でほんの謝金程度、本当にいままでの委託料に比べればぐっと単価は下がっております。それで回数についても協定では3回になってはいますが、独自で月に1回程度はやりたいという形で市には申し出ていただいているので、その辺だけは誤解のないようお願いしたい。

【小川政彦委員】

・芝刈り機1台は、構成員が240名いるので、うまくリカバリーできるような気がするが、高齢化がありますので、芝刈り機を1台減にして、優勝トロフィーとか大会賞品はカットした方がいい。

【上野きみえ委員】

・私もこの優勝トロフィーから下の体育館使用料までは自主財源すべきだと思う。

【平井達夫会長】

・その他、質問・意見ありますか。それでは芝刈り機が2台になっているのが1台という提案がありますが、皆さんそれでよろしいか。

(「はい」の声)

・それと景品については必要なしという意見がありますが、それでよろしいか。

(「はい」の声)

【徳永妙子委員】

・景品はいらないですよという話でしたが、グラウンドゴルフの道具に関しては買うということで行くのか。

【上原明紀委員】

・私は、2番は全部削除という話をさせていただきました。

【平井達夫会長】

・②グラウンドゴルフ用品関係から体育館使用料までは、南中島の件がありますので、基本的には、それは時間差によって変更するものではないのではないかと思いますか。

(「はい」の声)

・それでは芝刈り機1台。

【上原明紀委員】

・1台の見積もりが出ていないから、半分で値引きができるかどうか。定価は21万円で、2台買って33万円なので、20万円位がいいのではないかと。

・ガソリン代を入れて21万円。

【平井達夫会長】

・それでは決定しましょう。21万円でよろしいか。

(「はい」の声)

・それでは21万円、「板倉北部運動公園（十作公園）活用事業」、稲増自治区は提案どおり採択、助成金21万円、よろしいか。

（「はい」の声）

【平井達夫会長】

・それでは、少し戻らせていただきます。「古代の歴史を訪ねながら、体力づくり及び丈の山の観光開発に係わる事業」、皆さんのお手元にコピーが行っていますか。

【上原明紀委員】

・事業名称はまるっきり同じですが、実施内容は違う。

【平井達夫会長】

・板倉区の方針でいきますと、同じ事業については3ヶ年ということに謳ってあります。これについては、今ほど説明がありましたように、若干言葉の言い回しが違うのですが、みんな同じだと、過去4年間22・23・24・25と4年間実施していますという意見だと思います。

・そうしますと不採択ということになりますか。

【古海誠一委員】

・今回提案されている筒方口の駐車場の整備については、初めてということだと思いますが、ここだけを求めたほうがいいのではないか。

【丸山公星委員】

・先ほど言ったように、相対的に残りの2つをやってみて、それで決めたらどうか。残った段階で、2次募集しなくてはいけなくなりますので。そうならないように。

【平井達夫会長】

・やり方として、いろいろと方法あるが、今丸山委員が言われたように後の2つ、豊原地区の方から出ている分、これを審議して最後にと話が出ているので、よろしいか。

（「はい」の声）

・それではその様にさせていただきます。続いて「豊原地区地区防災検討会防災訓練事業」板倉青少年育成会豊原小学校支部の意見・質問を求める。

【中嶋隆一委員】

・地域活動支援事業で提案してくる内容ではないと思う。防災なら防災で違う事業でやった方がいいと思う。

【平井達夫会長】

- ・今の意見は防災なので、町内会等が出る意見だと思う。

【古海誠一委員】

- ・今、中嶋委員が言われたとおりだと思うが、その他の考え方として小学校が板倉区に4つあるので、これを認めると他の小学校が来年、我もという話になりますので方針に疑問があるのに他の小学校からまた来年出るというのは、間違いない。

【平井達夫会長】

- ・不採択の意見が出ているようですが。採択したほうがいいのではないかというような意見はないか。よろしいですか。それでは諮ります。「豊原地区地区防災検討会防災訓練事業」提案板倉青少年育成会豊原小学校支部については、不採択ということでよろしいですか。

（「はい」の声）

- ・この理由については、地域活動支援事業に要請する項目でないのではないかと、町内会等の防災関係でとこういうことですね。

（「はい」の声）

- ・それではその様にさせていただきます。続いてその下、「豊原地区地域美化活動学校周辺整備事業」について、豊原小学校PTAの意見・質問を求めます。

【古海誠一委員】

- ・こういう整備については、だいたい小学校の後援会費の方から出すのが常だと思う。だから少し地域活動支援事業でやるのはおかしいと考えます。

【丸山公星委員】

- ・今の古海委員の意見でいいのではないかと。

【平井達夫会長】

- ・いいですか。賛成の意見ありませんか。

【委員】

- ・ありません。

【平井達夫会長】

- ・それでは「豊原地区地域美化活動学校周辺整備事業」につきましては、不採択といたします。よろしいですか。

(「はい」の声)

・それでは最後になりましたが、戻ります「古代歴史を訪ねながら体力づくり及び丈の山の観光開発に係わる事業」の意見・質問を求める。

【丸山公星委員】

・総額は最後にどうなったか。

【上原明紀委員】

・72万円です。

【丸山公星委員】

・72万円もあるのですか。

【上原明紀委員】

・駐車場は認めると42万円ぐらいです。

【小林良一委員】

・その辺ははっきりさせてから結論を出さないと、違う事例が出てきた時困るので、これはこういう理由だからやりましたという、ある程度明確な部分がないと、また次々といろんなものが出てきた時に議論を醸し出すと思うので、これはこういう理由でこうだというある程度の方針というか、これは何で特別になったかとある程度ははっきりしておかないといけない。

【平井達夫会長】

・今、事務局からお配りしたように今度採択すると5年目という形になるので、その辺の理由づけをはっきりして、採用なら採用とする必要があるのではないかと今後に影響してくる。

【西田節夫委員】

・平成24年も丈の山筒方入口頂上の車の回転場所、駐車場の整備ということで5台程度の駐車場のコンクリート舗装の施工ということで、申請したところが、不採決にされました。

・24年の年、不採決になっているから今配った中では載ってきておりません。申請書が私ここにあるので、申請書を見て話をさせていただいている。丈の山の筒方口の頂上の駐車場と回転場所については、不採決になっているので、今回もまた同じもので出てきたなと思っていた。

【平井達夫会長】

・只今、部分的に駐車場の整備だけ筒方の方から上がる方の整備だけは認めてもいいのではないかと、それとも全部不採択の方がいいのではないかという意見なのですが、意見が割れている。

【小林良一委員】

・要はこれを精査して、それで取組むのかどうかというのが一番最初であって、それがクリアしたらどうするかという問題になるかと思うが、この辺、皆さん意見統一されていなければ、なんとなくいいか悪いかになってしまう。

【平井達夫会長】

・例えば採用するという事になったら、どういう条件付意見統一するか。

【丸山公星委員】

・資料では100万円を超える理由書も付いていますね、これを見ますと結論的に今まで予算がつかなかったと、それで120万円出てきたわけですね。今回削ればまた、はっきり採択基準に合致しませんよとかにしないと、また来年になって予算が出てくる。

【小林良一委員】

・ですから、その辺の理由付けがきちんとしていないと、同じことを何回も繰り返すような形になると思うので、皆さん、せっかく資料をもらったので、これで市の採択基準に合っているか、合っていないかが出れば入っていないければ外す理由になる。

【上原明紀委員】

・板倉区の採用方針でいくとバツですね。

【小林良一委員】

・その辺をはっきりして皆さんの意見統一しておかないと、いいとか、悪いとかではなくて、要は協議会で意思統一としては、これはだめですよと言うのか、それとも特例で何かやる場合であれば、それだけの理由付けをしておかないと、また同じですよ、金額下げたからまた来年という同じ繰り返しになってしまう。

【西田節夫委員】

・平成26年の支援事業の筒方の聖の岩窟については、カーブが多いので舗装したいということで昨年は3回採択したが、栗沢の町内会さんには今年度をもって地域活動支援事業の最終年度とした。これが本来の姿だ。

・板倉の採択基準からいったら、だからこういうことを皆さんきちんと保管をしておかないと4回、5回、6回になってしまう。

【平井達夫会長】

・それでは、いろいろと意見があるでしょうけど、採択基準にのって不採用ということではよろしいか。

（「はい」の声）

・それでは不採用とします。それでは事務局にお願いなのですが、15件我々の方で採択、不採用させていただいたのですが、不採用のものについては理由付けをお願いしたい。

【山岸G長】

・先ほどの3番の板倉北部運動公園の草刈機の関係なのですが、皆さんの中で認めるのは草刈機1台分で、単価について減額値引きがあるが、ガソリン代を合わせて21万円を決定額にしようではないかと言われたのですが、機械をもし買うとすると21万円かからない場合があります。

・値引きがあつて、そうした時にお金が浮いてしまうということになるので、草刈機のバージョンアップを求めないで、この草刈機ということであれば、その分を踏まえてもう少し決定額を落として、自己負担にしておく方が安全だと思います。たった1台の機械で余裕がないので補助割れはもったいない。

【小川政彦委員】

・先ほどの話と逆ですね、先ほどは足りないのではないかということでしたよね。値引きを考えると、20万円では買えないと思う。

【山岸G長】

・21万円は1台の単価なので、値引き前の単価ですよ。

【小川政彦委員】

・その方はガソリンに回せばいいのではないか。

【山岸G長】

・ガソリンはここでは10ℓとなっているが、21万円は決まりで草刈機を1台買うことは認めると、その残はガソリンに燃料費に使いなさいという感じですか。21万円に変わりなく今の方向でよろしいですか。

【平井達夫会長】

・いいのではないのでしょうか。非常に難しいところでだが、数字を合わせなくてはいけないということになれば、それしかない。

【山岸G長】

・650万円に対しまして、今まで採択決定した額で余った金額、配分に満たない金額として72万円丁度です。採択額は578万円です。

【小川政彦委員】

・追加募集したらどうか。

【平井達夫会長】

・配分額に対して72万円の差額残額がでると、いかがという話の中に追加募集という話が出ている。

・追加募集をするか、追加募集をしないで返納するか、この2つに1つしかないが、追加募集でよろしいか。

（「はい」の声）

・追加募集の期間等について、事務局から説明をお願いします。

【丸山公星委員】

・追加募集というよりも削減した所を復活して、今回終わらせたらどうか。そのほうがいいのではないか。

【小川政彦委員】

・市の大事な税金を使うのですから、中身である。今回この中で採択いただいた中で余ったのは、次にまた出てくるかもしれないじゃないですか。それは、市が大変だということとは違う。

【西田節夫委員】

・去年も追加募集させていただいたが、追加募集するのが私は一番妥当と思う。

【小林良一委員】

・72万円をフィードバックすると、ほとんどみんなクリアしてしまう。

・今まで長い時間をかけて精査していくらが妥当か検討をしてきたが、フィードバックすると、その結果がほとんど無意味というか、審議する必要がなかったのではないか。

・小川委員、西田委員が言われる様に大切な税金ですから審議した結果、残ったものを

有効利用するという形がいい。

【平井達夫会長】

- ・追加募集ということによろしいか。

（「はい」の声）

- ・それでは皆さん、大勢が追加募集となりましたので、追加募集をかけることになりま
す。ついては今後の追加募集のスケジュールについて事務局の説明を求めます。

【山岸G長】

- ・今日が5月28日ということで、周知等を考え追加募集は6月16日から6月30日
の期間で募集をかけたいと思う。

【平井達夫会長】

- ・事務局の案によろしいですか。

（「はい」の声）

- ・それでは、その様に事務局今後のスケジュールを進めてください。
- ・それではただいま精査していただいた結果を、平成27年度地域活動支援事業の審査
結果として、市へ報告することといたしたいと思いますが、よろしいですか。

（「はい」の声）

- ・審査結果については文書で総合事務所長に報告するとなっておりますが、形式的な報告
文書ですので、作成と報告については私と大口副会長に一任させていただけますか。

（「はい」の声）

- ・それでは、その様に進めさせていただきます。
- ・地域活動支援事業の審査については以上とする。
- ・次に（2）その他に移ります。事務局の説明を求める。

【山岸G長】

（資料No. 3により説明。）

【小林良一委員】

- ・12月町内会の話し合いの結果を各連絡協議会となっているが、山部小校区は寺野地
区連絡協議会もあるし、山部地区連絡協議会もありますので、イニシアチブをどちらか
にとってもらって、やるという形か。

【山岸G長】

・今回の会場の設定はどうか。

【小林良一委員】

・山部の場所になりますが、それはあくまでも多しんの里ということで、両地区で全部集まってという形になる。

【山岸G長】

・どちらかが、イニシアチブをとったか。

【小林良一委員】

・どちらかが、イニシアチブをとるのではなくて、両方。宮島もそうではないか。

【古海誠一委員】

・宮島小学校区はもう結論出ているのですが、筒方地区と宮島地区の合同でやっている。

【小林良一委員】

・各連絡協議会でカッコして校区となると、どちらがイニシアチブをとるかなど。

【山岸G長】

・かえって校区が無いほうがいいのですか。

【小林良一委員】

・はい。ですから寺野地区連絡協議会の意見と、山部地区の連絡協議会を出していただいて、連絡協議会長どうしでコンセンサスをとって、山部小学校区の意見とする。

【山岸G長】

・そうするか、もう校区をとって6つの連絡協議会の意見としてあげていただくか。

【小林良一委員】

・それでもいいです。

【山岸G長】

・どちらがいいですか。

【上原明紀委員】

・校区がいいのではないかと。4つあったら4つでまとめてもらったほうが。まとめやすい。

【小林良一委員】

・それは、その方がいいと思うが、要はコンセンサスを寺野地区なら寺野地区、山部地区と最終的には連絡協議会長同士で出てきた案を山部校区なら山部校区の案件である

という形で出していただければ、それぞれの意見も集約できるので。

【山岸G長】

・小林委員のお話というのは、今回というよりも文書を出す時にはっきりと分かるようにする。

【小林良一委員】

・山部校区でいいのです。これはあくまでも各連絡協議会になっていますので、その辺の意見を集約するのならその前の段取りとして各連絡協議会で協議してそれを持ち寄って山部校区の意見という形で集約したらどうか。

【山岸G長】

・今のスケジュールに書いてある文言を変えた方がいい。

【小林良一委員】

・これだと誤解がある。各連絡協議会というのと校区というのと2つある。

【丸山公星委員】

・これは寺野だけの問題です。

【平井達夫会長】

・校区、小学校の在り方だから今4つしかないので、最終的には校区で出せばいい。

【小林良一委員】

・これを逆に言ったら校区というふうにしてもらえば、各連絡協議会でなくて各校区で取りまとめていただいてということだ。

【山岸G長】

・分かりました。連絡協議会という文字をとったほうがいい。

【小林良一委員】

・とったほうがいいです。小学校区の意見というならそれでいいのです。

【山岸G長】

・分かりました。

【平井達夫会長】

・他に協議事項がないので、これで本日の協議事項を終了する。

・本日の会議録の確認は、丸山公星委員にお願いします。

【久保田次長】

・以上で本日の日程を終了させていただく。

【大口ハル子副会長】

・閉会の挨拶

9 問合せ先

板倉区総合事務所 総務・地域振興グループ

TEL : 0255-78-2141 (内線 123)

E-mail : itakura-ku@city.joetsu.lg.jp

10 その他

別添の会議資料もあわせてご覧ください。